

自ら学ぶ教職員 活動報告書

グループ名 超自主研

テーマ 各分野から発達障がいのある子ども達の支援を考える
～最新の研究を学びながら～

取組のポイント・成果

本グループは、職場の枠を超え主体的に子どもの支援を考えたいメンバーが集まった。発達障がい児者の支援を考えるに当たって、教師は個別の教育支援計画を作成しているが、一教師だけでは、包括的に途切れのない子どもの支援や保護者支援を考えることは難しい。そこで、幅広く研修しながらも、深く実践的に学んでいく場が欲しいと考え、個の事例を通した勉強会を開いていくことにした。

最新の研究は、セミナー等に出かけて専門家から学びながら、勉強会においては、セミナーで学んだことを取り入れながら「画像を伴った事例検討会」に限定した。それは、画像を伴うことで、参加者全員が事例について共通理解が図り易いということと、画像は思い込みに気付かされたり、自分とは違う他者の視点から学んだりすることができ、多面的に子どもを捉えることができるようになるからであり、参加者の学び合いの場になる。本グループは、「主体的」がポイントなので、話を聞くとか資料を読む、体験するようなインプットだけではなく、必ず意見を言う、表現するなどのアウトプットを重視してきた。

毎回の勉強会では、活発に意見が出され、それぞれがそれぞれの立場で得るものがあり、それが、次の勉強会の開催につながってきた。場所や人を固定せず、参加できる勉強会に参加し、勉強会も各々がテーマを設けて設定してきた。「自分はこの画像から、何を捉えることができたか(できなかったか)、それをどのように発言できたか(又は、できなかったか)、他の参加者に自分の発言が伝わったか」等、参加者自身が、その場で自己評価しやすい勉強会にしたことも良かった点だと考える。

まとめると、各々がニーズを拾い各勉強会を開催していくというシステムと、老若男女年齢やキャリアに捕らわれず、「勉強したい」という思い1つで集まること、また、教師だけでなく、医師や心理士、保育士、児童指導員といった他分野の人と繋がりを持ち、実践家と学び合う場にしたことが広がりのあるエキサイティングな勉強会にすることができた。

【研修・勉強会の実際】

○6月30日 JASPERの勉強会(大正大学巣鴨キャンパス)参加

自閉症スペクトラム症の早期支援の最前線～JASPERプログラムの日本での試み～

講師：名古屋学芸大学ヒューマンケア学部 黒田美保先生

わが国の発達障害者支援の動向

障害児支援の在り方に関する検討会・放課後等デイサービスガイドライン(2014)

児童発達支援ガイドライン(2017)・インクルーシブな支援を行っていくためには

平成31年度厚生労働科学研究費→国立機関・専門家の連携と地域研修の実態調査による

発達障がい児者支援の効果的な研修の開発

講師：中京大学 辻井正次先生

Early intervention : The JASPER model

講師：UCLA Kyle Sterrett & Kiana Krolik

*「わが国の発達障害者支援の動向」を確認しながら、今後の動向を学んだこと

*JASPERプログラムの日本での試みを知ったこと、エビデンスベースで物事を考えること

*講話の中で一番印象に残った言葉「同じ目標(象徴遊び段階)でもその方法に違いがある。もし、大人がいなかったら子どもは自分で遊ぼうとするだろうか。」

○TASP 研修会参加

講師：名古屋学芸大学 浜田恵先生 (TASP 開発副責任者)

◎7月11日 超自主研主催勉強会 「中学部男子の事例」

岐阜本巣特別支援学校 古田真紀子・阿部有紀子開催

◎7月18日 超自主研主催 川島東子ども園勉強会 「行動を見る～年長児の事例～TASP～」

○7月28日 セミナー

「社会性の発達支援の方向性～幼児期・学齢期支援の重要性を中心に～児童発達支援から放課後等デイサービスを通してできること・親の会でできること」

講師：石川道子先生×辻井正次先生

*「行動で考えること」「保護者支援の考え方の基礎」「ペアレントプログラム」「社会性の発達」を学ぶ。

◎8月1日 超自主研主催勉強会 「中学部男子の事例」

岐阜特別支援学校 羽田野佳子開催

○8月4日 セミナー Vaineland・II 適応行動尺度の勉強会

講師：中京大学 辻井正次先生

◎8月20日 超自主研主催 夏の勉強会

講師：岐阜聖徳学園大学 野村香代先生、医師 石川道子先生

研修報告・事例提供 羽島特別支援学校 青木智春

◎10月31日 超自主研主催勉強会 「奏音の児童指導員と共に年中児の支援の実際を考える」

講師：山下結子先生 事例提供 羽島特別支援学校 青木智春

○11月9日 セミナー「発達障害における発達支援について～感情のコントロールやトラウマを中心に～」

講師：杉山登志郎先生×辻井正次先生×明翫光宜先生

◎12月11日 超自主研×保育×特別支援コラボ勉強会

「行動から発達を捉える(5歳児の動画から)」

事例提供 羽島特別支援学校 青木智春

◎1月16日 超自主研主催勉強会 「中学部男子の事例」

岐阜本巣特別支援学校 古田真紀子・阿部有紀子 開催

以上、超自主研のメンバーを中心に各所で6回の勉強会を重ねた。各勉強会とも画像を伴ったことで、参加者自身が「行動を見ることで思い込みからの脱却が図れる」「一人では子どもを捉えることは難しいが、他者の視点を合わせていくと子どもの実態が浮かび上がる」「根拠をもって説明することの大切さ」等の感想が寄せられた。これらの感想は、参加者の個々の実践につながっていくと考えている。

今後の課題

・画像を伴う勉強会、参加者が発言していく参加型勉強会は大変ニーズがあり、各方面で「面白い」「分かりやすい」「目にウロコ」「勉強になった」という意見が多かった。未来を担う学生さんと共に行った勉強会でも同様である。しかし、守秘義務厳守と提供者と保護者の信頼関係が必要な手法なので、困り感のある担任の児童生徒の支援を考える場合は、各学校に行って場所の提供をしていただく必要がある。今回事例を提供して下さった保護者には今後も継続して画像提供をお願いしている。保護者と共に「子どもの支援を考える」「教師も子どもと共に一緒に育っていく」というスタンスを崩さないように支援に当たっていく。

・今後も教師だけでなく、他分野の専門家とつながりを持ち、包括的に子どもの支援について考えていく。